

社会に生きる学力形成の視点から

市川伸一（東京大学教育学研究科）

「学力向上」の動きをどうとらえるか

単なる「振り子」の揺り動かしてではない
新たな(あるいは継承された)キーワード

確かな学力(基礎基本+思考力・判断力・表現力)

PISA型読解力(学力)

習得—活用—探究

「教えて考えさせる指導」による習得

生きる力、人間力、社会人基礎力

学校・地域・家庭の連携

社会生活につながる学力の形成

社会的格差への配慮

「生きる力」の展開としての「人間力」

内閣府「人間力戦略研究会」(2002年11月～2003年3月)

教育、産業、労働・雇用の分野から「人間力」を考える

背景:若者の学習意欲の減退、フリーター・ニートの増大

「人間力」という言葉に触発されて教育像が広がること

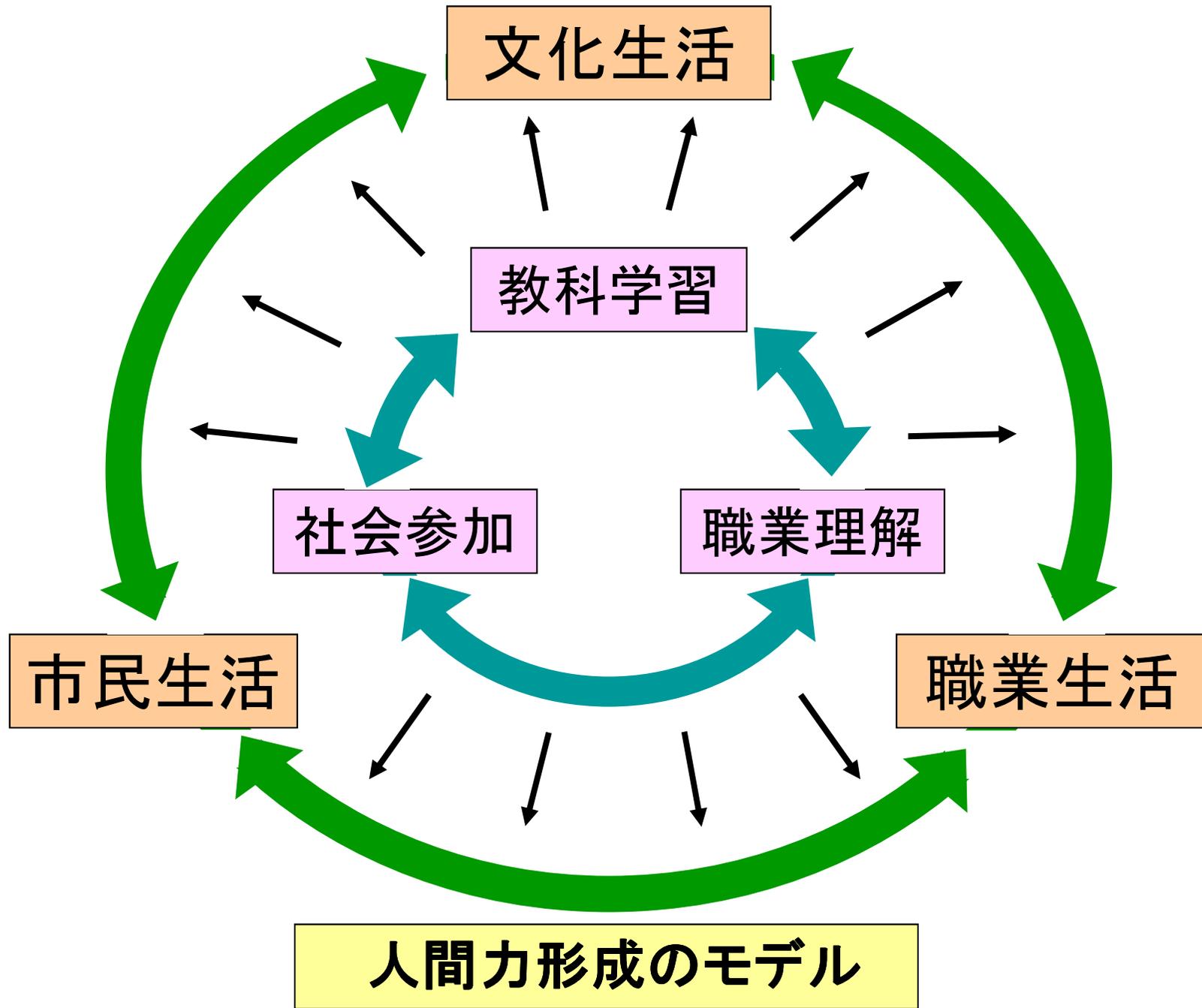
教育のモデルを「教科を極めた人」から「市民」へ

教育によって何を育てるのか

「学問＝学習＝学力＝学校」から

「人間として、社会の中で、自立して力強く生きていく力」へ

人は社会で何をしているかに着目



さまざまな学習環境の長所・短所

学校教育（授業・補習・部活等）

- 義務教育は、すべての子どもが受けられる
- 高校も、公立ならば費用はあまりかからない
- 成績・卒業が、進学・就職の社会的評価につながる
- 児童・生徒に内容選択の自由が少ない
- 補習・部活は、学校に所属している生徒しか参加できない

民間教育（塾・習い事等）

- 多様な内容・レベルから選択できる
- 家庭に経済力がないと受けにくい
- 商業ベースにのる内容に限定されがち

地域教育（自治体・市民団体・大学・民間企業等）

- 多様なプログラムが提供される
- 生徒は、自由、自発的に参加でき、費用も安い
- もともと意欲が高い子どもだけになりがち

『新しい時代の義務教育を創造する』

(2005,10,26 中教審答申)

学校力、教師力の強化により、人間力を育成



中央教育審議会

初等中等教育分科会

教育課程部会

横割り部会

小学校部会

中学校部会

高等学校部会

縦割り部会

総
則

国
語

社
会

算
数
・
数
学

⋮

図
工
・
美
術

道
徳

新学習指導要領の告示 (2008年3月28日)

小学校での変化

国語・算数・理科の大きな時数増

高学年での外国語活動の導入

中学校での変化

選択教科の実質的廃止

英語、数学、理科の大きな時数増

部活動の位置づけ

内容面での変化

- 全体的に学習内容の復活
- 教科の中での体験、活用の充実
 - 教科横断的に言語活動の重視
- 道德教育のあり方
 - 徳目から生活へ(やや)シフト
- 家庭や地域との連携
 - 生活習慣、学習習慣
 - キャリア教育、ボランティア活動

指導観の対立を越えて

教科の系統的学習 vs 生活単元学習

教師主導主義 vs 学習者中心主義

受容学習 vs 発見学習

一斉指導 vs 個に応じた指導 vs 協同学習

残された課題

学校教育の到達目標のイメージ(モデル)は何か

教科の習得／探究・創作／市民生活

そこに向けてのグランドデザインとカリキュラム

「社会に生きる学力」へとつなげる

参考図書紹介

『開かれた学びへの出発 ―21世紀の学校の役割―』
(市川著、金子書房、1998年)

『勉強法が変わる本―心理学からのアドバイス―』
(市川著、岩波ジュニア新書、2000年)

『学力低下論争』
(市川著、ちくま新書、2002年)

『学力から人間力へ』
(市川編著、教育出版、2003年)

『学ぶ意欲とスキルを育てる ―いま求められる学力向上策―』
(市川著、小学館、2004年)

『「教えて考えさせる授業」を創る』
(市川著、図書文化、2008年)